

**CASBEE-建築(新築)2016年版**  
(仮称)学校法人 京都インターナショナルユニバーシティ 新校舎新築工事

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版  
 ■評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v4.0)

スコアシート		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
<b>Q 建築物の環境品質</b>								<b>2.3</b>
<b>Q1 室内環境品質</b>								<b>2.3</b>
<b>1 音環境</b>				<b>2.2</b>	<b>0.15</b>			<b>2.2</b>
1.1 室内騒音レベル				1.0	0.40			
1.2 遮音				3.0	0.40			
1 開口部遮音性能				3.0	0.30			
2 界壁遮音性能				3.0	0.30			
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				3.0	0.20			
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				3.0	0.20			
1.3 吸音				3.0	0.20			
<b>2 温熱環境</b>				<b>2.6</b>	<b>0.35</b>			<b>2.6</b>
2.1 室温制御				3.0	0.50			
1 室温				3.0	0.60			
2 外皮性能				3.0	0.40			
3 ゾーン別制御性					-			
2.2 湿度制御				1.0	0.20			
2.3 空調方式				3.0	0.30			
<b>3 光・視環境</b>				<b>1.8</b>	<b>0.25</b>			<b>1.8</b>
3.1 昼光利用				1.8	0.30			
1 昼光率				1.0	0.60			
2 方位別開口					-			
3 昼光利用設備				3.0	0.40			
3.2 グレア対策				1.0	0.30			
1 昼光制御				1.0	1.00			
3.3 照度				2.0	0.15			
3.4 照明制御				3.0	0.25			
<b>4 空気質環境</b>				<b>2.6</b>	<b>0.25</b>			<b>2.6</b>
4.1 発生源対策				3.0	0.50			
1 化学汚染物質				3.0	1.00			
4.2 換気				2.3	0.30			
1 換気量				3.0	0.33			
2 自然換気性能				3.0	0.33			
3 取り入れ外気への配慮				1.0	0.33			
4.3 運用管理				2.0	0.20			
1 CO <sub>2</sub> の監視				1.0	0.50			
2 喫煙の制御				3.0	0.50			
<b>Q2 サステナビリティ性能</b>								<b>2.2</b>
<b>1 機能性</b>				<b>2.4</b>	<b>0.40</b>			<b>2.4</b>
1.1 機能性・使いやすさ				3.0	0.40			
1 広さ・収納性					-			
2 高度情報通信設備対応					-			
3 バリアフリー計画				3.0	1.00			
1.2 心理性・快適性				2.0	0.30			
1 広さ感・景観				1.0	0.50			
2 リフレッシュスペース					-			
3 内装計画				3.0	0.50			
1.3 維持管理				2.0	0.30			
1 維持管理に配慮した設計				2.0	0.50			
2 維持管理用機能の確保				2.0	0.50			
<b>2 耐用性・信頼性</b>				<b>2.7</b>	<b>0.30</b>			<b>2.7</b>
2.1 耐震・免震・制震・制振				3.0	0.50			
1 耐震性(建物のこわれにくさ)				3.0	0.80			
2 免震・制震・制振性能				3.0	0.20			
2.2 部品・部材の耐用年数				3.0	0.30			
1 躯体材料の耐用年数				3.0	0.20			
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				3.0	0.20			
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				3.0	0.10			
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				3.0	0.10			
5 空調・給排水配管の更新必要間隔				3.0	0.20			
6 主要設備機器の更新必要間隔				3.0	0.20			
2.4 信頼性				1.8	0.20			
1 空調・換気設備				3.0	0.20			
2 給排水・衛生設備				3.0	0.20			
3 電気設備				1.0	0.20			
4 機械・配管支持方法				1.0	0.20			
5 通信・情報設備				1.0	0.20			

3	対応性・更新性		1.6	0.30	-	1.6
	3.1 空間のゆとり		1.0	0.30	-	
	1 階高のゆとり		1.0	0.60	-	
	2 空間の形状・自由さ		1.0	0.40	-	
	3.2 荷重のゆとり		2.0	0.30	-	
	3.3 設備の更新性		1.8	0.40	-	
	1 空調配管の更新性		1.0	0.20	-	
	2 給排水管の更新性		1.0	0.20	-	
	3 電気配線の更新性		3.0	0.10	-	
	4 通信配線の更新性		3.0	0.10	-	
	5 設備機器の更新性		1.0	0.20	-	
	6 バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	
Q3	室外環境(敷地内)			0.30		2.5
1	生物環境の保全と創出		2.0	0.30	-	2.0
2	まちなみ・景観への配慮		3.0	0.40	-	3.0
3	地域性・アメニティへの配慮		2.5	0.30	-	2.5
	3.1 地域性への配慮、快適性の向上		3.0	0.50	-	
	3.2 敷地内温熱環境の向上		2.0	0.50	-	
LR	建築物の環境負荷低減性					3.4
LR1	エネルギー			0.40		4.1
1	建物外皮の熱負荷抑制	年間熱負荷係数 (BPI <sub>m</sub> ) = 0.527	5.0	0.20	-	5.0
2	自然エネルギー利用	太陽光発電は発電の可能性ありの為、直接利用に含めない	3.0	0.10	-	3.0
3	設備システムの高効率化	一次エネルギー消費量 (BEI <sub>m</sub> ) = 0.61	4.9	0.50	-	4.9
4	効率的運用		2.0	0.20	-	2.0
	集合住宅以外の評価		2.0	1.00	-	
	4.1 モニタリング		3.0	0.50	-	
	4.2 運用管理体制		1.0	0.50	-	
	集合住宅の評価		-	-	-	
	4.1 モニタリング		-	-	-	
	4.2 運用管理体制		-	-	-	
LR2	資源・マテリアル			0.30		2.7
1	水資源保護		3.0	0.20	-	3.0
	1.1 節水		3.0	0.40	-	
	1.2 雨水利用・雑排水等の利用		3.0	0.60	-	
	1 雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	
	2 雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	
2	非再生性資源の使用量削減		2.5	0.60	-	2.5
	2.1 材料使用量の削減		-	-	-	
	2.2 既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.22	-	
	2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		3.0	0.22	-	
	2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		1.0	0.22	-	
	2.5 持続可能な森林から産出された木材		3.0	0.11	-	
	2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		3.0	0.22	-	
3	汚染物質含有材料の使用回避		3.0	0.20	-	3.0
	3.1 有害物質を含まない材料の使用		3.0	0.30	-	
	3.2 フロン・ハロンの回避		3.0	0.70	-	
	1 消火剤		-	-	-	
	2 発泡剤(断熱材等)		3.0	0.50	-	
	3 冷媒		3.0	0.50	-	
LR3	敷地外環境			0.30		3.1
1	地球温暖化への配慮	外壁・屋根の断熱性を高めた	4.0	0.33	-	4.0
2	地域環境への配慮		2.3	0.33	-	2.3
	2.1 大気汚染防止		3.0	0.25	-	
	2.2 温熱環境悪化の改善		2.0	0.50	-	
	2.3 地域インフラへの負荷抑制		2.2	0.25	-	
	1 雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	
	2 汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	
	3 交通負荷抑制		2.0	0.25	-	
	4 廃棄物処理負荷抑制		1.0	0.25	-	
3	周辺環境への配慮		3.0	0.33	-	3.0
	3.1 騒音・振動・悪臭の防止		3.0	0.40	-	
	1 騒音		3.0	0.50	-	
	2 振動		3.0	0.50	-	
	3 悪臭		-	-	-	
	3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制		3.0	0.40	-	
	1 風害の抑制		3.0	0.70	-	
	2 砂塵の抑制		-	-	-	
	3 日照障害の抑制		3.0	0.30	-	
	3.3 光害の抑制		3.0	0.20	-	
	1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	広告物照明なし	3.0	0.70	-	
	2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	

CASBEE-建築(新築)2016年版

(仮称)学校法人 京都インターナショナルユニバーシティ 新校舎新築工事

評価する取組み	合計	合計2	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13
<b>Q2 サービス性能</b>															
1.2.3 内装計画	2.0	2.0	○	○	-	-	-	○	-	○	-	-	-	-	-
1.3.1 維持管理に配慮した設計	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-
1.3.2 維持管理用機能の確保	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.1 空調・換気設備	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.2 給排水・衛生設備	2.0	2.0	-	-	-	-	○	-	○	-	-	-	-	-	-
2.4.3 電気設備	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.5 通信・情報設備	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>															
1 生物資源の保全と創出	4.0	-	-	-	-	1.0	-	-	1.0	-	1.0	1.0	-	-	-
2 まちなみ・景観への配慮	3.0	-	2.0	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	2.0	-	-	-	-	1.0	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-
3.2 敷地内温熱環境の向上	3.0	-	-	-	-	-	3.0	-	-	-	-	-	-	-	-
<b>LR1 エネルギー</b>															
2 自然エネルギー利用	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<b>LR2 資源・マテリアル</b>															
1.2.2 雑排水等再利用システム導入の有無	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.1 材料使用量の削減	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 有害物質を含まない材料の使用	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<b>LR3 敷地外環境</b>															
2.2 温熱環境悪化の改善	3.0	-	-	-	-	-	-	-	-	2.0	1.0	-	-	-	-
2.3.3 交通負荷抑制	1.0	-	1.0	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.2.2 砂塵の抑制	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.3.1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	2.0	-	2.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

主な指標		Q1 室内環境									
2.1.3 外皮性能		窓システムSG - 窓の日射熱取得率(η) -									
		U値(W/m2K)		窓システム -		屋根 -		外壁 -		床 -	
		住戸部分		窓システムU値 -		外皮UA値 -		η AC -		η AH -	
3.1.1 昼光率		昼光率 0.6%									
4.2.2 自然換気性能		自然換気有効開口面積率 0.0%									
Q2 サービス性能		執務スペース .0㎡/人 病床 .0㎡/床 シングル .0㎡ ツイン .0㎡									
1.1.1 広さ・収納性		コンセント容量 30.0 VA/㎡									
1.1.2 高度情報通信設備対応		天井高 0 m									
1.2.1 広さ感・景観		リフレッシュスペース 0.5% レストスペース 2.0%									
1.2.2 リフレッシュスペース		想定耐用年数 0 年									
2.2.1 躯体材料の耐用年数		想定必要間隔 0 年									
2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		想定必要間隔 0 年									
2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		想定必要間隔 0 年									
2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔		階高 3.5 m									
3.1.1 階高のゆとり		壁長さ比率 0.0%									
3.1.2 空間の形状・自由さ		床荷重 2900 N/m2									
3.2 荷重のゆとり		外構緑化指数 8% 建物緑化指数 0%									
Q3 室外環境(敷地内)		空地率 0% 水平投影面積率 0% 地表面対策面積率 4% 舗装面積率 3%									
1 生物資源の保全と創出		BPI/BPI <sub>m</sub> 0.52 断熱等性能等級 等級2 相当									
2 敷地内温熱環境の向上		自然エネルギー直接利用量 0 MJ/年㎡ 採光を満たす教室数 100.0% 採光を満たす住戸数 0.0%									
LR1 エネルギー		BPI/BPI <sub>m</sub> 非住宅 0.61 住宅 - 太陽光 4.6kW 太陽熱等 .0kW 蓄電池 .0kW									
3 設備システムの高効率化		雨水利用率 0.0%									
LR2 資源・マテリアル		特定調達品目 - エコマーク商品 - 自治体指定の特定品目等 -									
1.2.1 雨水利用システム導入の有無		使用比率 0.0%									
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		オゾン層破壊係数(ODP) 地球温暖化係数(GWP)									
2.5 持続可能な森林から産出された木材		オゾン層破壊係数(ODP) 地球温暖化係数(GWP)									
3.2.1 消火剤		オゾン層破壊係数(ODP) 地球温暖化係数(GWP)									
3.2.2 発泡剤(断熱材等)		見付面積比 #DIV/0! 隣接間隔指標R <sub>w</sub> -									
3.2.3 冷媒		地表面対策面積率 4.0% 屋根面対策面積率 0.0% 外壁面対策面積率 0.0%									
LR3 敷地外環境		見付面積S <sub>b</sub> 30㎡ 卓越風向と直交する最大敷地幅W <sub>s</sub> 30 m 基準高さH <sub>b</sub> 30 m									
2.2 温熱環境悪化の改善		緑地 163㎡ 水面 ㎡ 保水性対策面 ㎡ 高反材対策面 ㎡ 再帰性反射対策面 ㎡									